

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2019年7月10日

学籍番号	17pda06	所属	トレーニング科学系
氏名	相馬 満利		
学会等名 (正式名称)	European College of Sport Science (ECSS) 2019		
開催日程	2019年7月3日 ~2019年7月6日		
開催場所 (国・都市名)	Prague-Czechia		
発表演題名	Quantitative assessments of 3-D human body shape in Japanese sedentary women by using homologous body model. -Thickness distribution pattern in obese figures-		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 今後の研究のモチベーションになり、より一層研究に精進し、人間としての幅を広げ、また今回の学会のような有意義で充実した学会に参加できるように頑張りたいと強く思った。今学会大会で強く感じたことは、スポーツの価値、スポーツの持つ力は、人生や社会を変え、世界とつながり未来をつくることに尽きるということであった。2020年東京オリンピック・パラリンピックまで、またその後も、スポーツと人で世界がつながり、スポーツに貢献する日本、学校として何ができるか、考えるいい時間であった。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 人の形態的特徴を発表している研究分野は多くみられなかったが、参加者の中で肥満の問題をクローズアップしている発表が多くみられた。現在日本は、医療技術の進歩、健康増進などにより、平均寿命は世界トップクラスの水準となり、世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎えている。高齢化の進行に伴い、高齢者自身の健康志向は高まっている。中でも運動への関心は高く、運動を習慣としているものの割合は60歳以上で男女ともに40%を超えており、他の年代よりも高い数値を示している。しかし、過体重または肥満である成人の有病率は増加しており、世界人口の(世界保健機関:WHO 2014)10~30%を占めている。今学会で、効果的な運動指導の方法も提示しているものが多くみられた。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> e-posterのため、直接はディスカッションを行っていないが、肥満に焦点をあてたセッションを聞いてとても勉強になった。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。